

科学研究費補助金の申請に向けて

▶ 科研費申請にあたっては細目の決定が大切 ◀

名古屋大学工学研究材料プロセス工学専攻教授 浅井 滋夫

日本鉄鋼協会の皆さんの内、大学関係の方々におかれては科学研究費申請書作成に忙しいこの頃と思います。会員の皆様の多くは「材料工学」の分科で申請されると思いますので、「材料工学」分科の審査の仕組みについて述べます。基盤研究など（基盤研究、萌芽的研究、奨励研究（A））は二段審査で審査されます。「材料工学」分科は表1に示す

表1 材料工学分科の細目と幹事学協会

分科	細目	幹事学協会
材料工学	金属物性	日本金属学会
	無機材料・物性	日本セラミックス協会
	複合材料・物性	日本化学会
	構造・機能材料	日本金属学会
	材料加工・処理	日本金属学会
	金属生産工学	日本鉄鋼協会

ように6細目から成っており、それぞれの細目には幹事学協会が決められております。幹事学協会は細目の内容にふさわしい所定の関連学協会から審査委員の推薦を受け、関連学協会間の了解を得て審査委員候補者を決め、文部省に上申します。細目毎に3－6人の審査委員が第1次審査にあたります。この審査は個人の責任と良識によって評価がなされ、合議は禁じられております。第2段審査は第1段審査の結果に基づき、2名の審査員が合議により、広い立場より総合的判断を行い、採択候補課題を選定します。第2段審査は細目間の調整作業が主となりましょうから、第1段審査結果が大切であることは言を待ちません。

「材料工学」分科の幹事学協会は日本鉄鋼協会、日本金属学会、日本化学会、日本セラミックス協会ですが、その内、日本鉄鋼協会と日本金属学会が幹事学協会となる4細目は主に金属関係学協会（日本鉄鋼協会、日本金属学会、資源・素材学会、日本鋳物協会、表面技術協会、溶接学会、日本非破壊検査協会、粉末粉体冶金協会、軽金属学会、日本塑性加工学会、日本熱処理技術協会、腐食防食協会）から審査委員候補が出ます。

各分科、細目への科学研究費の配分は、当該分科および細目への申請件数と総申請額によって決まる仕組みとなっております。ちなみに最近の細目別申請件数は表2のとうり推定されております。申請件数に応じて審査委員の数も

表2 細目別申請件数

細目	平成8年度	平成9年度
金属物性	206	199
無機材料・物性	273	301
複合材料・物性	128	137
構造・機能材料	316	326
材料加工・処理	431	448
金属生産工学	244	239

変更されるようで、平成10年度は「無機材料・物性」と「構造・機能材料」で審査委員が3名から6名に変更になるようです。「金属物性」と「金属生産工学」の細目で申請件数が僅かではありますが、減少いたしております。関係の先生方におかれましては、なお一層のご奮起をお願いします。

研究課題の新規採択率は15－30％前後ですが、前年度の採択、不採択に拘わらず、「材料工学」分科の「金属物性」、「構造・機能材料」、「材料加工・処理」、「金属生産工学」の細目に、積極的に、できるだけ多く、しかも必要経費を十分盛り込んだ申請をすることが、金属系材料分野への配分総額を伸ばし、ひいては会員皆様の研究課題の採択数増加に繋がります。このことをよく頭に入れて細目を選びましょう。

なお、基盤研究、萌芽的研究、奨励研究（A）以外は上記とは別に審査されます。

(1997年7月17日受付)